

風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。
マタイによる福音書3：3

【説教要旨】

聖書日課は、A表と呼ばれ、マタイによる福音書になっています。正直、私は、マルコ、ルカによる福音書と比べれ、なじめない福音書です。しかし、どこか透明性があり、こころにしみ込んできます。

本日の聖書日課は、マルコ、ルカにもあります。「荒野」という言葉がでてきます。「荒野で叫ぶ者の声がする」というみ言葉を聞きます。今日の私たちが生きている時代、場所で本当に「荒野」ということを実感して感じていませんか。

激変する世界の動きをみると、世界大戦が今にも始まりそうな感じがあります。とくにウクライナ、ガザの戦いは虐殺に近い強者が弱者を叩きのめすというものです。たくさんの正義が対立して、何が正義なのか、何が真実なのかまったく分からなくなっています。日本においても、台湾問題を切っ掛けに、日本と中国の関係日々、緊張の中にあります。起こる世界の動きは、すさまじいほどの荒々しいものにさらされています。自然界においてもまたそうです。地球環境変動です。熊出没の頻度の多さ、ぶりが北海度でもとれ、逆に鮭が減少という地球温暖によるという世界にあって、私たちは「荒野で叫ぶ者の声がする」という洗礼者ヨハネの叫び声は、「悔い改めよ。」という言葉です。ヨハネはこの荒野で私たちが「悔い改める」ことを

求められているのです。また彼は一つのことを示します。「わたしの後から来る方」ということです。後から来る方とは、イエス・キリストです。イエスさまの生涯を描いた伝記で、もっと古い福音書であるマルコが土台となって、マタイ、ルカ福音書はできました。土台のマルコ福音書は、イエスの誕生物語を書いていません。多くを十字架の物語で占められています。つまり福音書の中心は、イエスがあざけられ、つばはきかけられ、茨の冠をかぶせられ、十字架において磔にされたということです。まさに荒野であるのです。そこには命がなくなる、そして何がなんだか分からなくなる。真実が、正義が打ちのめされていく。すべてが踏みにじられていく。そういう場が、時が聖書の中心だと伝えるのです。

「悔い改めよ」という意味は、今まで生きてきた方向を百八十度変えよということです。そこで私たちが何を見るかと言うことです。「わたしの後から来る方」です。不真実のどん底で、真実なものが、限りなく真実なものが隠されているということです。

確かに今の時代、すさまじいほどの嵐が吹き、荒野化しています。命が消され、不義がまかりとおっています。不義が正義になっていく、そこで私たちは何もできない。私たちは虚無に陥るか、見ないように生きるしかない。しかし、そうではないという。「悔い改めよ」という。このなかで「わたしの後から来る方」、イエス・キリストを見よといわれる。ここに真実がある。ここに命がある。ここに絶大なる価値がある。この世のもうもろのものは彼の前にうちまかされる。私たちを覆っているこの世の力、価値は「くつのひもさえ、とく値打ちのないものである」となると伝える。

確かに私たちの前に荒野がある。しかし、ここに真実が隠され、命が隠されているというのです。このことに気づき生きるものがまことに悔い改めて生きる者であると洗礼者ヨハネは叫ぶのです。

「悔い改めにふさわしい実を結べ」と言われるとき、それは、

イエス・キリストを信じる信仰であるのです。

今回、日曜日から体調を崩しました。胆管炎の再発です。

後、インターネットで調べてみると敗血症になり命を失うこともあるとありました。人は、いつも命の危機にあり、思いもよらないときに、人生をおわらせるのです。信仰に生きる者もそうです。しかし、一つのことを知っています。私たち信仰者は、価値ない人生であっても、「悔い改める」続けるものであり、「わたしの後から来る方」、イエス・キリストを見ふさわしい「悔い改めにふさわしい実を結ぶ」者であるということです。

悔い改めにふさわしい実とはその人が人間的に立派になる一生活態度が改まる一というような薄いものではありません。そうではなく自分の人生がどのような人生であろうと「わたしの後から来る方」、イエス・キリストに向かっていると言っています。ただ、ひたすらキリストに支えられていく、この信仰をもって生きる強さこそ悔い改めの実です。

確かに今、私たちの周りは荒野の世界かもしれない、ここでくじけそうになる、虚無がおそってくる。しかし、私たちは悔い改めにふさわしい実を結ぶ者として、信仰をもってなおも希望をもって、荒野の中を生きてゆく、聖書は荒野から新たな命が生まれると伝えています。荒野から「**主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。**」ということが実現する。道が開かれていくのです。

荒野から叫ぶ者の声がする、それは私たち一人ひとりの神への信仰をもち、希望をもって力強く語る私たちの声です。あきらめずに、いや今の荒野の時代だからこそあきらめずに主の真理の語る声として今日も私たちは声をこの世界に語っていきましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると

教会をみると



かつての複数共同牧会(複数の教会、複数の牧師と信徒が宣教、牧会に携わる)を推進した教区長であった重富牧師が、その中の「教会共同体」について検証した。複数共同牧会への本質的困難さ、宣教力がアップしないという指摘であった。元教区長で、推進した人が指摘することには大いに耳を傾けた。「宣教力は低下する」、牧会は全人格的であり、FACE TO FACE, MY PASTORであるが、このことがあやふやになる。

今、複数共同牧会どころか、一人の牧師がいくつかの教会を担当する兼任体制で、牧会は全人格的であり、FACE TO FACE, MY PASTORであるが、このことが信徒は、あやふやになる。

それは、教会のみでなくお寺を含め「全人格的」の危機にある。

養老孟司さんは、こんな時代だから「全人格的」出会いと、さらに自然との出会いをこれに加える。お寺の緑の豊かさは人を癒すと。

西洋的教会は西洋の影響を受けて、いつも自分の便利さだけに、合理性の中を生き、教会から緑を奪っていく。今の時代だから合理性より癒しの自然を残すことも宣教ではないかとふと思う。森の教会。

園長・瞑想？迷走記

大森幼稚園の庭の桜、楓、どんぐり、アーモンドなどの木の葉が落ちるとき、いつもなら落葉は掃いてしまうのですが、この時期、毎年、掃くことなく庭に残しておいた。出たこどもは落ち葉に关心を持つ子もあれば、他の遊びが楽しくふりむきもしない子もいるが、養老さん言うように自然と触れ合って欲しいと思っていた。子どもたちは落葉を見、踏みつけ、その色と感触を味合う味を心のどこかで思い出とし沈み込み、貯められていてほしい。



うらを見せ おもてを見せて散るもみぢ良寛の辞世だが、自然とひとつになり、このような歌を詠むような気持ちをもった大人になってもらいた

日毎の糧



聖書：神よ、あなたによる裁きを、王に、あなたによる恵みのみ業を、王の子にお授けください。

王が正しくあなたの民の訴えを取り上げ、あなたの貧しい人々を裁きますように。

山々が民に平和をもたらし、丘が恵みをもたらしますように。王が民を、この貧しい人々を治め、乏しい人々の子らを救い、虐げる者を打ち碎きますように。

王が太陽と共に永らえ、月のある限り、代々に永らえますように。

王が牧場に降る雨となり、地を潤す豊かな雨となりますように。生涯、神に従う者として栄え、月の失われるときまで、豊かな平和に恵まれますように。主なる神をたたえよ

イスラエルの神 ただひとり驚くべき御業を行う方を。

栄光に輝く御名をとこしえにたたえよ

栄光は全地を満たす。アーメン、アーメン。 詩編72



ルターの言葉から

この方（イエス・キリスト）は、あふれるばかりの恵みをもっておいでになり、あなたの必要を満たし、祝福してくださいます。（『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社）

マラナタ

「王の詩篇」に数えられ、理想化した王の統治を詠いあげる点では独特の響きをもつ。（「詩篇の思想と信仰III」月本照男 新教出版）

今の時代だから72篇の詩の祈りは切に求められ、実現していくことを願う。大変に整えられている。

私たちは現実がどうであれ、77篇の祈りの実現を「マラナタ主よ、来てください」と日々、祈りを強くしていきたいと思う。

祈り：主よ、世界は滅びへと向かっています。神の正義がいきわたるようにマラナタ。

甘木通信

空の空、いっさいは空である。

すべてに時がある。生まれる時、死ぬとき。

コヘレトの知恵

先週は人生で愉しかったという時について、お話をした。今日は苦しかった時である。



働くけど、働くけどなお、わがくらし生活楽にならざり ちっと手をみる

啄木の詩のようにまじめな父はよく働いたが貧乏で、貧乏は両親の夫婦仲の悪さ、病気の中で育つ時があった。東京に出た時、こういう事から解放されたと正直、思った。しかし、故郷はときにおもふもの そして悲しくうたふものというよう故郷は、悲しくうたふものになった。

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。」という声は、苦しかった時は聞こえていなかった。

しかし、今、振り返ってみると苦しい時も、人生にイエスさまは、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。」と思う。ただ、自分が聞こえに耳をかす余裕がなかったのかもしれない。苦しみという日常が壊れるとき、自分の生き方から自分を考えるようになり、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。」というイエスの声が聞こえてくると思う。主の声に生かされてくる。

さらに歳を重ねると段々とこの世の声が聞こえなくなる。ただ、いつも自分にそこに留まらないで、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。」という声が強く聞こえてくる。

すべてに時があるである。

(甘木日記)土) 教会の花を購入し、クリスマスに向けて準備。また調子が悪い。日) 礼拝から体調が激変し、立てなく座って礼拝。やっと礼拝を守る。気分が悪く控室で休む。立てず泊まる。月) 朝やっと熱も下がり久留米に帰り。病院。家で休みを取る。火) 久留米友の会でのクリスマスマッセージ。バス停が見つからず、やっと幼稚園にたどり着く。水) 二週間前に病気の6ヶ月定期健診を良好であったが今日の結果は最悪。10時半から17時半まで検査、MRI検査。点滴。幼稚園のみんなと最終の時。木) 松崎保育園は休みのために一日中、家で休憩し、主日の準備、羽村幼稚園のzoom会議。金) 朝、管理者がいなくて、早朝、園にいく。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。 はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）教会の春花壇の花の苗を購入した。今年は、三色すみれでなく、ビオラと金魚草にした。道路側に植えると可愛い。クリスマスに向けて準備で、Hさんが外の電飾を準備してくれた。また胃の辺りの調子が悪い。また、胆管炎が起きそうだと予感。日）朝掃除も体が重く十分に出来ずにいた。礼拝から体調が激変し、立てなく椅子に座って礼拝。やっと礼拝を守る。気分が悪く控室で休む。立てず泊まる。後日、インターネット調べると主な症状として、右上腹部の痛み：胆管がある場所に痛みが生じ、背中に放散することもあり。たしかに背中が痛かった。発熱：炎症に伴い、38℃以上の高熱が出ることが多い。確かに。黄疸：水曜日の検査で高値。胆汁の流れが滞ることで、皮膚や白目が黄色くなります。確かに。悪寒戦慄：強い炎症がある場合に、ぞくぞくとした寒気や震えを伴うことがあります。震えていた。誰が側にいてもどうにかなるわけでないし妻には久留米に帰ってもらった。いざという時は隣のHさんに電話をすれば良い。がさがった。月）Hさんが、熱が下がった私をつてください。大学病院の休みを取る。明日は友の会をしなければならない。どうに。火）祈り聞かれ、体久留米友の会でのクリスマス来る。その後、幼稚園に行のか思い、明日の大学病院うと思う。取り消さず。水）の6ヶ月定期健診を良好では今まで最悪の悪い検査結果は絶えずして、しかももず。よどみに浮ぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとまりたるためしなし。世中にある人と栖と、又かくのごとし。まさにそのつくりになった。CRPが0.4から12という30倍。医師が「肝臓の数値も入院する程度の結果ですが・・・」。そこでCT検査、さらに造影剤MRI検査。点滴。10時半から17時半まで病院。点滴中、病院のいつも風景。さらに老いると自分もこうなるのだとか、大病院と町の病院の関係など分かってくる。十二指腸に憩室があり、胆管は十二指腸とつながっているので、逆行性に腸より大腸菌などの細菌が流入して炎症がおきる場合が多いと説明。幸い肝臓は回復しているということ。薬を止めたからなということで再開。幼稚園に帰り、残った先生らみんなと帰る。家まで送っていただき助かった。胆管炎は高齢者の病気で敗血症を起こし、死亡原因となるとインターネットあり。日曜日は守られた。木）松崎保育園が休みのために一日中、家でゆっくりと休憩し、主日の準備、羽村幼稚園のzoom会議に出られた。金）早朝、園にいく。



3時ごろ朝と熱手配くださりK久留米に連れていく診療の予約。家のクリスマス礼拝うにか出来ますよ調もまあまあで、メッセージが出て、仕事。治ったの予約を取り消そ二週間前に病気ったが今日の結果果。「ゆく河の流との水にあら